

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 大阪府初のエンパワメントスクールとして、これまで箕面東高校が取り組んできた「生徒が主役」の教育を基盤とした実践をさらに発展・拡充し、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校をめざす。
- 教職員一同が、生徒一人ひとりの教育に全力を注ぐことにより、「よい人材に入ってもらうのではなく、よい人材に育てる」学校をめざす。
- 【めざす生徒像】(アドミッションポリシーと同様)
- チャレンジ精神にあふれる生徒
- 自分の力を人や社会のために役立てる気持ちの強い生徒
- 規律を守り、学校生活を充実させたい生徒

## 2 中期的目標

- 1 学び直しとしての「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立
- (1) エンパワメントスクールの理念である社会人として必要な「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む。
- ア 1年次、国数英は30分授業(モジュール授業)を毎日継続することにより、効率的に学力向上を図り基礎学力の定着を実現する。
- イ 国数英は、3年間習熟度別授業を行い、一人ひとりに応じた学習を進め、得意科目の伸長、苦手科目を克服することで学ぶ意欲を喚起させる。
- ウ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を踏まえて、タブレット・電子黒板等のICT機器活用やステップ分けしたドリル教材の活用により、わかりやすい授業の実現と達成感を自覚することで、学習意欲を高める。
- エ S Jプラン(スーパージャンプ):チャレンジ精神から高い学習意欲を持つ生徒に対して、進学向け補習・講習等を通じて支援を続ける。
- ※授業アンケートにおける全項目平均値3.3以上(2020年度)をめざす。(28年度:3.22、29年度:3.28)
- 2 希望進路実現のためのキャリア教育の発展
- (1) 「正解が1つではない課題」に対して3年間取り組むことで現代社会に通用し、貢献できる人材を育成する。
- ア 「産業社会と人間」「総合的学習の時間」「エンパワメントタイム選択科目」など『エンパワメントタイム』とし、情報編集力を高める。
- イ 『エンパワメントタイム』などの授業や講演会を通じてコミュニケーション力や社会人基礎力を身につける。
- (2) 希望進路実現するための3年間を見通した計画的なプログラムを策定し、最終的には納税者となれることを図る。
- ア 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、的確な進路選択力を育成する。
- イ 入学から卒業・進路実現を見通したキャリア教育を計画的に推進する。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「キャリアガイダンスは進路決定に役立ちましたか」に対する肯定率80%(2020年度)をめざす。(28年度:77.3%、29年度:77.5%)
- ※卒業時の進路未決定率10%以下(2020年度)をめざす。(28年度:12.4%、29年度:11.4%)
- (3) 箕面東版デュアルシステムの取り組みを充実させる。
- 3 生徒指導と相談体制の充実
- (1) 厳しく温かみのある生徒指導の充実
- ア すべての教育活動を通じて、規範意識の育成と果たすべき役割を自覚するための指導を実践する。
- イ 学校行事や部活動を充実させ、学校への帰属意識や連帯感を育成する。
- ウ 教員間でのコミュニケーションを密に行い、生徒情報の共有化を深め、中退防止につなげる。
- エ いじめ対策委員会の常設化をはじめ、いじめに対する対応を迅速に適切に行う。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「ルールを守っている」の肯定率85%以上(2020年度)をめざす。(28年度:84.4%、29年度:84.9%)
- ※生徒向け学校教育自己診断の部活動入部率の50%以上(2020年度)をめざす。(28年度:42.5%、29年度:42.6%)
- (2) 不登校生、課題を抱える生徒、再チャレンジなど多様な生徒への学校定着と自己実現を図る環境を整える。
- ア 各学年団ごとに支援教育コーディネータを配置し、個別の支援計画を作成して、進路実現を図る。
- イ 居場所としての「めいぷるカフェ」を開設し、NPO法人とも連携し、生徒の居場所活動に取り組むことにより、不登校生徒の防止を図る。
- ウ SSWを活用しながら生徒支援委員会を中心に、支援学校や子ども家庭センターなどとの外部連携を強化する。また、教育相談や支援に関する研修会・事例研究会を頻繁に開催し教員のスキルの向上を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「自分の居場所がある」に対する肯定率85%以上(2020年度)をめざす。(28年度:82.5%、29年度:83.9%)
- 4 エンパワメントスクールとしての広報活動の充実
- (1) 中学校・中学生への情報発信と広報活動の充実を図る。
- ア 学校ホームページの充実
- イ 中高連絡会、中学校訪問、オープンスクール、公開授業を積極的に実施し、本校エンパワメントスクールの理解と信頼を獲得する。
- ウ 部活動中心に中学校との連携を図り、中学校生に「行ってみたい箕面東」と言われるようにする。
- (2) 地域の教育資源を活用しつつ、本校の教育システムの理解を深めるための情報発信を展開する。
- ア エンパワメントスクール展を外部会場で開催する。
- イ 授業や部活動等で、地域住民との連携を充実・発展させる。
- ※本校HPの年間アクセス数増。オープンスクール参加者数の増員。地域住民の参加者数増。
- (3) 大阪府内外へエンパワメントスクールの素晴らしさを発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>[生徒について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校への満足度を知るために「箕面東高校に入学してよかったですか」という質問を入れた。その結果は、満足していると回答したのは80.3%にのぼった。しかし、「まったくよくなかった」と回答した生徒が21人もおり（1年：8人、2年：6人、3年：7人）、中退・転学が多いことがここにも表れている。満足度について否定的な生徒は「教職員たちは気持ちをわかってくれますか」の質問に対しても否定的な回答をしている傾向にあり、生徒と教員の良好な関係が満足度の基盤となっていることがうかがえる。</li> <li>「学校に信頼できる友だちがいる」（今年：91.7%←昨年：87.3%）、「学校に居場所がある」（今年：84.9%←昨年：83.8%）、「学校行事に積極的に取り組んでいる」（今年：80%←昨年：73.7%）、学校のルールを守る（今年：90.5%←昨年：84.9%）等、生徒の学校生活に関するアンケートへの肯定的な回答は高く、箕面東高校が生徒たちにとってよい環境であることを示している。</li> <li>箕面東の授業に対する生徒の満足度も85%を超え、高い比率を示している。これは、本校教員の「分かりやすい」授業への取り組みの成果と言える。</li> <li>教職員の生徒たちに対する理解や担任とのコミュニケーション、いじめへの対応の項目では満足度はやや下がり70%となっている。このことは生徒と教員の接する時間を増やす必要性を示している。</li> <li>本校の特徴でもあるキャリア教育については、80%以上の生徒が満足している（今年：81.8%←昨年：77.5%）。外部人材を活かし、生徒に刺激を与える効果があるので継続すべきである。</li> <li>家庭学習の時間は3年間で少しずつ増えている。ただし普段は「まったくしない」が68.7%（昨年：70.6%←昨年：72.6%）もいることが学力の向上に繋がらない要因と言える。どのように生徒に家庭学習を定着させていくかを各教科の教職員があきらめずに真剣に工夫し取り組んでいく必要がある。</li> <li>放課後の部活動は盛んであるが、入部率は40%（夏前は50%程度）と高くない。入部率を上げることで文化祭・体育祭等の行事も盛況になり、学校生活に前向きな生徒が増えるはずである。ただし、経済的な家庭状況も部活動には大きく影響するため、全員が入部することの難しさはある。</li> <li>頭髮指導等、生徒指導の方針には30%以上の生徒が納得していない。教職員に対するアンケートでも校則について生徒と話し合っているという割合は低く、その方針についてはさらに検討していく必要がある。</li> </ul> <p>[保護者について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどすべての項目で80%を超える満足度を示しているが、学校のHPやPTA活動に対する認識度が低くなっている。学校側が保護者の方々に対して、より積極的にPRに努めていく必要がある。</li> </ul> <p>[教職員について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校での教育活動全般において、教職員の満足度は80%を超えている項目が多い、特にICTの活用は93.6%と高い。</li> <li>清掃活動に対する意識は30%にも届かず、清掃活動も教育活動の一環であることを改めて認識する必要がある。</li> <li>PTA活動に参加していると認識している教職員は30%程度であり、本校のPTA活動が活発であるとは言い難い。教職員もPTAの一員であり、積極的に社会見学やPTAフォーラム等の行事に参加することで保護者との交流を通してより深い生徒理解ができるということの再認識が必要である。</li> <li>働き方改革に対する意識的な取り組みが進んでおらず、超過勤務が減少していないことは70%以上の教職員が感じている。次年度に向けた大きな課題である。</li> <li>学校の施設・設備に不満がある教職員が50%を超えている。生徒の意見にもトイレなどの施設に対する不満がかなりの割合を占める。</li> <li>校則についてはもっと議論する必要があることを60%以上の教職員が認識している。人権問題にしても議論の必要性を感じておられる教職員が多い。会議を増やせば、教職員の負担にはなるが、必要な会議を効率よく行うことも求められる。</li> <li>魅力的な図書室の整備や朝学での取り組みにより読書指導は充実してきているが、60%の方々さらなる取り組みが必要であると考えている。</li> </ul>	<p>第1回学校運営協議会 平成30年6月15日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*デュアルシステムの取り組みについて 生徒が将来像を描くため、学習意欲を高めるために非常に良いシステムなので継続してほしい。</li> <li>*モジュール授業の成果について 国語では書けなかった漢字が書けるようになった。数学では、文章題が解けるようになった、というデータがでている。英語についても中学校の学び直しをすることにより、解けたという喜びを感じられる。という回答に対して成果が上がっていることを確認された。</li> </ul> <p>第2回学校運営協議会 平成30年11月30日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*inputするだけでなく、outputする力を高校生段階から身につけると就職に役立つのではないかと指摘された。お風呂にスマホを持ち込む者という高校生の現状や高校生に限らず大人もスマホ依存している実態が浮かび上がった。</li> <li>*授業アンケート結果を踏まえて、生徒意識の項目「授業に対する興味感心」「知識や技能が身に付いた」がCSに比べるとESになって大きく伸びていることは高く評価していただいた。</li> </ul> <p>第3回学校運営協議会 平成31年3月6日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*奨学金を活用して大学や専門学校に進学しているようだが、卒業後にそれだけの負担（借金）を背負うことになることをもっと説明した方がよい。</li> <li>*調査期間中でもまったく家庭学習しない生徒が多い（約16%）のに驚いた。</li> <li>*モジュール授業とデュアルシステムが箕面東の素晴らしさである。</li> <li>*実際に被災したこともあり、防災教育の重要性は再認識されたので、もっとおこなうべきである。</li> <li>*中学時代に学習に躓いていたが、本校のモジュール授業を通じて、勉強がわかるようになった卒業生のことが話題となった。本人は本校の分かりやすい授業で「自信を回復」して、大学にも進学した。このことを出身中学校に報告しに行った。ただし、そんな本校の「教育力の高さ」をもっと拡散する手段がないのが残念である。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「学び直しとしての「わかる喜び」 学ぶ意欲を喚起する授業の確立	(1) 「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む ア 1年次国数英モジュール授業の充実 イ 3年間を見据えた習熟度別学習の実行 ウ ICT 機器活用や教科教材の共有化 エ 「わかる授業」を実現させるための取り組み オ 高い学習意欲を持つ生徒に対する学習支援	(1) ア・国数英3教科を毎日1, 2時間目に30分×3の授業とし、効率的に学力向上を図る。 イ・3年間を通じて、生徒一人ひとりに応じた学習を進められるよう、国数英3教科で習熟度別授業の計画し、実行する。 ウ・ICT機器を活用した授業とその相互の授業見学、また教材の共有化による授業力向上や校内研修会を積極的に実施する。 エ・教科の枠を越えて、「わかる授業」を実現させるための授業改善に取り組む。 オ・SJプラン(スーパージャンプ): チャレンジ精神から高い学習意欲を持つ生徒に対して、進学向け補習・講習等を通じて支援を続ける。	(1) 授業アンケートにおける全項目平均値3.3以上(29年度:3.28) ア・1年生の生徒向け学校教育自己診断の国数英の理解度の肯定率74%以上(29年度:72.0%) イ・3学年の生徒向け学校教育自己診断の国数英の理解度の肯定率70%以上(29年度:68.2%) ウ・教職員用学校教育自己診断におけるICT等の活用状況90%以上(29年度:87.2%) エ・生徒向け学校教育自己診断の「わかりやすい授業」の肯定率65%以上(29年度:62.7%) ・各教員が相互の授業見学を年間5回以上 オ・進学向け補習・講習の実施と自習室の活用	(1) 授業アンケート結果は(第1回:3.32、第2回:3.38)3.35と大きく向上した。(◎) ア・1年生の国数英のモジュール授業の肯定率は79.5%と高い。(◎) イ・習熟度を3学年とも実施している国数英の肯定率も75.8%と高い。(◎) ウ・ICT等の活用状況は93.6%と高かった(◎) エ・85.1%の生徒がわかりやすい授業と高い評価している。(◎) ・ほとんどの教員が5回以上の相互の授業見学を行っていた。(○) オ・希望者数は少ないが、進学向け講習を数回実施した。また、夏休みも含め、自習室を多くの生徒が活用していた。(○)
2 キャリア教育の発展 希望進路実現のための	(1) 「正解が1つではない課題」に対して3年間取り組む (2) 3年間を見通した計画的なプログラムを策定し、実行する (3) デュアルシステムの充実	(1) エンパワメントスクールの一つの使命でもある「正解が1つではない課題」に取り組ませ、情報編集力を身に付けさせる。 (2) 「企業関係者」「地域人材」の方々を、エンパワメントの講師に活用し、「本物に触れる授業」を実施し、キャリア教育の充実につなげる。 (3) ・適正人数の受講生徒とニーズに合った事業所の拡充を図る。 ・デュアル生徒の発表会の充実をめざす。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断の「総合・産業社会と人間」の理解に対する肯定率78%以上(29年度:76.4%) (2) ・生徒向け学校教育自己診断の「キャリアガイダンス」は進路決定に役立つ肯定率80%以上(29年度:77.3%) (3) ・デュアル生徒の満足度(アンケート)90%以上、デュアル発表会の内容の向上	(1) 「正解が1つではない課題」に取り組むことへの肯定率は79.6%と高い。(○) (2) 25人の中小企業の社長さんや多くの講師を招いたキャリア教育を展開し、81.8%と高評価を得た。(◎) (3) コミュニケーション力は向上し、不満足な生徒誰もはいなかった。また、プレゼン力も高くなった。(◎)
3 生徒指導と相談体制の充実	(1) 厳しく温かみのある生徒指導 ア 「果たすべき役割」の自覚と「規範意識」の育成 イ 学校への帰属意識と連帯感の育成 ウ 中退防止への取り組み エ いじめに対する対応を迅速に適切に行う オ 生徒との面談時間の確保 (2) SSWを活用しながら、多様な生徒の学校定着と自己実現を図る環境整備 ア 支援教育コーディネータによる支援教育計画の作成 イ 生徒の居場所活動による不登校防止	(1) ア・時期に応じた生徒指導(遅刻指導・自転車指導等)を展開する。 ・毎月行う全校集会で各分掌からその月の目標を伝え、生徒の自覚を促す。 イ・生徒会活動を充実させ、生徒主体の学校行事の発展・拡充で「生徒の成功体験」の場を増やす。 ・部活動加入率を上昇させる。 ウ・要支援の多い1年生に副主任を設置し、また、副担のHRへの参加によって担任業務の円滑化を進め、1年生の中退防止につなげる。 エ・いじめ対策委員会の常設化をはじめ、アンケートの実施し、いじめに対する対応を迅速に適切に行う。 オ・職員会議などの会議の精選を行い、生徒との面談や指導への時間を増やす。 (2) ア・各学年に支援教育コーディネータを配置し、「高校生活支援カード」や「教育相談アンケート」を活用し、組織的に個別の教育支援計画を作成し、実行する。 イ・居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」の機能を拡充し、居場所作りと個別相談活動を両輪とした不登校・中退予防体制を確立する。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「ルールを守っている」の肯定率85%以上(29年度:84.8%) ・全校集会を毎月実施 イ・生徒向け学校教育自己診断の「生徒会活動は盛んである」の肯定率60%以上(29年度:57.3%) ・生徒向け学校教育自己診断の部活加入率45%以上(29年度:42.6%) ウ・中退率5%以下(28年度:6.85%、29年度:3.6%) エ・生徒向け学校教育自己診断の「いじめ対応」の肯定率80%以上(29年度:76.0%) オ・会議の精選を実行する。 (2) ア・個別の教育支援計画作成達成率100% イ・不登校率20%以下(28年度:20.1%、29年度:12%) ・生徒向け学校教育自己診断の「学校に居場所がある」の肯定率85%以上(29年度:83.9%)	(1) ア・昨年より問題行動は多いが、「ルールを守っている」の肯定率は90.5%であった。(◎) ・全校集会では、表彰も含め、分掌科などと連携しては毎月行った。(○) イ・体育祭や文化祭が大いに盛り上がり、生徒会活動の評価も72.2%に上昇した。(◎) ・夏前の部活加入率は50%程度だったが、1月には39.5%に低下した。(△) ウ・転学者が増加したため中退率は2.3%と大きく下がった。(○) エ・いじめへの対応評価が昨年の76.0%から73.0%に下がった。(△) オ・職員会議を3回減らしたが、教員の多忙感は消えていない。(△) (2) ア・対象者が急増し、個別の教育支援計画書の記入に時間がかかってしまった。(△) イ・めいぶるカフェの存在によって不登校予備軍の居場所が出来上がった。不登校率は13%であった。(○) ・居場所があると答えた生徒は昨年より微増の84.9%であった。(○)

## 府立箕面東高等学校

<p>4 エンパワメントスクールとしての広報活動の充実</p>	<p>(1) 中学校・中学生への情報発信 ア学校HPの充実 イ中学校連携の発展・拡充  ウ広報誌の充実、広報グッズの工夫  (2) 地域連携の充実 アエンパワメントスクール展の開催 イ年2回の授業公開期間の実施 ウ地元の保育所等との連携 (3) 大阪府内外への情報発信</p>	<p>(1) ア・時期に応じたニュースとエンパワメントスクール独自の取り組みを広く発信する。 イ・オープンスクールの充実、中高連絡会の効果的開催、緊密な中学校訪問を行い、きめ細かい中高連携を進める。また、部活動を通じた中高の交流を行っていく。 ウ・エンパワメントスクールの教育内容を中心とした広報誌「みのひがレター」を、地元中学校の3年生全員に年2回配布する。 ・広報グッズをより魅力的なものにする。 (2) ア・地元箕面市の施設を利用した「エンパワメントスクール展」を開催し、本校教育実践を広く府民に情報発信する。 イ・6月、11月のそれぞれ3日間の授業公開を実施。 ウ・保育所との食育や防災における連携を行う。 (3) エンパワメントスクールの素晴らしさを大阪府内外の教育機関に発信する。</p>	<p>(1) ア・HPの更新数の増加ならびにアクセス数の増加(29年度:約2万7千回) イ・年間4回のオープンスクール参加中学生数450名以上(29年度:412名) ・近隣中学校への複数回訪問 ・里帰り生徒を20人以上 ・中高のクラブ交流 ウ・出身中学校の生徒が活躍していることがわかる教育内容の記事のレター年2回作成 (2) ア・発信性の高いパネルの作成 イ・授業公開日に日曜日を含むことで、中学生の保護者が参加しやすくする。また、本校の保護者の参加者数を30名以上にする。 ウ・「子どもクッキング」や「避難訓練」の実施。 (3) ・府内外の視察を積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) ア・更新数は昨年より増加し、アクセス数は災害対応以降で急増した。3月中旬で3.8万件を超えている。(◎) イ・参加中学生339名(△) ・校長が訪問した中学校数は35校(◎) ・里帰り30校(◎) ・部活動を通じた合同練習などの中高のクラブ交流は実施できなかった。(△) ウ・レターを2回発行し、近隣の中学校に配布した。(○) (2) ア・生徒のいい表情のパネルを作成し、展示した。(○) イ・6月の授業公開は、地震のため中止、10月での本校の保護者の参加者数は14名だった。10月の日曜日には中学生とその保護者は15名ずつ来校した。(○) ウ・子どもクッキングは2回実施、また避難訓練と防災クッキングも行った。(◎) (3) 全国総合学科校長会でエンパワメントスクールの良さを発表した。なお、府内の見学はもとより、京都・静岡・岡山・和歌山・宮城・神奈川(2校)から視察もあった。(◎)</p>
-------------------------------------	--	--	---	--